

# 安全データシート

## ポリ硫酸第二鉄

作成日 1995/7/1

改訂日 2022/4/1

### 1 化学品および会社情報

化学品の名称：ポリ硫酸第二鉄  
 供給者の会社名称：タイキ薬品工業株式会社  
 住所：福岡市東区東浜一丁目9番4号  
 電話番号：092-641-5736  
 メールアドレス：info@taiki-y.co.jp  
 推奨用途：凝集剤、排水処理剤、消臭剤  
 使用上の制限：

### 2 危険有害性の要約

化学品のGHS分類 分類できない、区分に該当しないは省略。区分該当判定は項目1.1及び1.2参照  
 人の健康に対する有害性： 皮膚腐食性／刺激性 区分1  
 眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性 区分1  
 環境に対する有害性： 水生環境有害性（急性） 区分3  
 GHSラベル要素

絵表示又はシンボル：



注意喚起語：

## 危険

危険有害性情報：

### 【健康有害性】

H314 重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷

H318 重篤な眼の損傷

### 【環境に対する有害性】

H412 長期的影響により水生生物に毒性

注意書き：

### 【安全対策】

P260 ミストを吸入しないこと。

P264 取扱い後は手をよく洗うこと。

P273 環境への放出を避けること。

P280 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

### 【応急措置】

P310 皮膚に付着した場合、眼に入った場合：直ちに医師に連絡すること。

P363 汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。

P301+P330+P331 飲み込んだ場合：口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。

P303+P361+P353 皮膚（又は髪）に付着した場合：直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を水【またはシャワー】で洗うこと。

P304+P340 吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

P305+P351+P338 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

【保管】

P405 施錠して、保管すること。

【廃棄】

P501 内容物／容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

3 組成および成分情報

化学物質・混合物の区別： 混合物（水溶液）

| 化学名又は一般名 | 成分濃度範囲     | 化学式  | 官報整理番号 | CAS No.    |
|----------|------------|--|--------|------------|
| 塩基性硫酸第二鉄 | 36～39質量分率% | [Fe <sub>2</sub> (OH) <sub>n</sub> (SO <sub>4</sub> ) <sub>3-n/2</sub> ] <sub>m</sub><br>(ただし0<n≤2、m=f(n)) | 記載なし   | 51434-22-1 |
| 水        | 61～64質量分率% | H <sub>2</sub> O   | 対象外    | 7732-18-5  |

慣用名又は別名： polyferric sulfate、塩基性硫酸第二鉄、重硫酸第二鉄

4 応急措置

**吸入した場合：** 被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。医師に連絡すること。

**皮膚に付着した場合：** 汚染された衣類、靴などを脱ぎ捨てる。製品に触れた部分を水又は微温湯を流しながら洗浄する。外観に変化がみられ、痛みが続く場合は直ちに医療措置を受ける手配をする。

**眼に入った場合：** 直ちに清浄な水で15分以上洗眼する。その際は瞼を開き水が全面にゆきわたるように行う。医師の手当てを受ける。コンタクトレンズを使用の場合、取り除いて洗浄する。

**飲み込んだ場合：** 飲料水を多量に飲ませた後、直ちに医師に連絡すること。口をすすぐこと。

**急性症状及び遅発性症状の最も重要な兆候症状：** 情報なし

**応急措置をする者の保護に必要な注意事項：** 汚染された衣類や保護具を取り除く。救助者が有害物に触れないよう手袋を使用するなど注意する。

**医師に対する特別な注意事項：** 情報なし

5 火災時の措置

**適切な消火剤：** 周辺の火災に適切な消火剤を使用する。

**使ってはならない消火剤：** 情報なし

**火災時の特有の危険有害性：** 消火作業の場合は必ず保護具を着用する。

**特有の消火方法：** 付近の着火源となるものを速やかに取り除くとともに消火剤を準備する。速やかに容器を安全な場所に移す。移動不可能の場合は、容器及び周辺に散水して冷却し、容器の破壊を防ぐ。

**消火を行う者の特別な保護具及び予防措置：** 耐熱手袋、ゴーグル型保護眼鏡を着用する。

6 漏出時の措置

**人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置：** 作業の際は適切な保護具を着用し、飛沫等が皮膚に付着したりしないようにする。風上から作業し、風下の人を避難させる。付近の着火源となるものを速やかに取り除く。漏出した場所の周辺にロープを張るなどして関係者以外の立入を禁止する。

**環境に対する注意事項：** 流出した製品が河等に排出され、環境へ影響を起こさないよう注意する。大量の水で希釈する場合は、汚染された排水が適切に処理されずに環境へ流出しないように注意する。

**封じ込め及び浄化方法と機材：** 漏出源を遮断し、漏れを止める。少量の場合は、乾燥砂、土、おがくず、ウエス等に吸収させて、密閉出来る空容器に回収する。大量の場合は、盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いて回収する。

**二次災害の防止策：** 情報なし

## 7 取扱い及び保管上の注意

### 取扱い

#### 技術的対策：

『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。

#### 安全取扱注意事項：

取扱い後はよく手を洗いうがいをする。火気注意。

飲み込みを避けること。ミスト、蒸気を吸入しないこと。

眼に入れないこと。

#### 接触回避：

『10. 安定性及び反応性』を参照。

### 保管

#### 安全な保管条件：

耐腐食性の内張りがされているもので、適切な容器で貯蔵すること。

#### 安全な安全な容器包装材料：

耐腐食性、耐腐食性内張りのあるもの、又は適切な材料の容器で保管すること。  
最初の容器内でのみ保管すること。

## 8 ばく露防止および保護措置

### 許容濃度：

日本産衛学会 2021年版 設定されていない

ACGIH 2021年版 設定されていない

### 設備対策：

取扱い場所の近くに洗身シャワー、手洗い、洗眼設備を設ける。

### 保護具

#### 呼吸器の保護具：

必要に応じて保護具を着用すること。

#### 手の保護具：

保護手袋を着用すること。

#### 眼及び/又は顔面の保護具：

眼の保護具を着用すること。

#### 皮膚及び身体の保護具：

保護衣を着用すること。

## 9 物理的および化学的性質

### 物理状態：

液体

### 色：

赤褐色

### 臭い：

無臭

### 融点/凝固点：

約-10~-15℃

### 沸点、初留点及び沸騰範囲：

約108℃

### 可燃性：

不燃性

### 爆発下限界及び爆発上限界

不燃性

### /可燃限界：

### 引火点：

不燃性

### 自然発火点：

不燃性

### 分解温度：

データなし

### pH：

1以下

### 動粘性率：

データなし

### 溶解度：

水に易溶。

### n-オクタノール

### /水分配係数 (log値)：

データなし

### 蒸気圧：

データなし

### 密度及び/又は相対密度：

1.45~1.48g/cm<sup>3</sup>(20℃)

### 相対ガス密度：

データなし

## 10 安定性および反応性

### 反応性

#### 化学的安定性：

常温常圧下では安定である。

#### 危険有害反応性可能性：

製品は強熱して蒸発乾固させると亜硫酸ガスを発生する。

#### 避けるべき条件：

高温状態。鉄や銅合金などの金属との接触。

混触危険物質： 情報なし。  
 危険有害な分解生成物： 亜硫酸ガス。

11 有害性情報

急性毒性（経口）： ラットLD50 >2,000mg/kgにより区分に該当しないとした。  
 急性毒性（経皮）： データ不足のため分類できない。  
 急性毒性（吸入：蒸気）： データ不足のため分類できない。  
 急性毒性（吸入：粉じん、ミスト）： データ不足のため分類できない。  
 皮膚腐食性/皮膚刺激性： pHが1以下であることから区分1とした。  
 眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性： pHが1以下であることから区分1とした。  
 呼吸器感作性/皮膚感作性： データ不足のため分類できない。  
 生殖細胞変異原性： データ不足のため分類できない。  
 発がん性： データ不足のため分類できない。  
 生殖毒性： データ不足のため分類できない。  
 特定標的臓器（単回ばく露）： データ不足のため分類できない。  
 特定標的臓器毒性（反復ばく露）： データ不足のため分類できない。  
 誤えん有害性： 粘粘性率が不明のため、分類できないに該当。

12 環境影響情報

生態毒性：  
 水性環境有害性 短期（急性）： 魚類 ヒメダカ の 96 時間の LC 50= 200 mg /L から、 区分に該当しないとした。  
 水性環境有害性 長期（慢性）： 金属化合物であり水中での挙動及び生物蓄積性が不明であるため、区分3とした。  
 残留性・分解性： データなし  
 生態蓄積性： データなし  
 土壤中の移動性： データなし  
 オゾン層への有害性： 当該物質はモントリオール議定書の附属書に列記されていないため区分に該当しないとした。

13 廃棄上の注意

残余廃棄物： 消石灰、炭酸カルシウム、ソーダ灰等を加えて中和した後、廃棄する。  
 都道府県知事等の許可を得た廃棄物処理業者に委託処理する。  
 汚染容器及び包装： 容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14 輸送上の注意

国際規制  
 海上規制情報 I M O の規定に従う  
 航空規制情報 I C A O / I A T A の規定に従う。  
 国連番号： UN3264  
 品名（国連輸送品名）： その他の腐食性物質（無機、液体、酸性のもの）  
 CORROSIVE LIQUID, ACIDIC, INORGANIC, N.O.S.  
 国連分類： Class8  
 容器等級： Packing Group III  
 MARPOL73/78附属書II及び  
 IBCコードによるばら積み輸送される  
 液体物質： 非該当  
 国内規制  
 陸上規制情報： 非該当  
 海上規制情報： 非該当  
 航空規制情報： 航空法の規定に従う

**特別の安全対策：** 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。食品や飼料と一緒に輸送してはならない。  
他の危険物や燃えやすい危険物に上積みしない。

**緊急時応急措置指針番号：** 154

## 15 適用法令

|                                      |   |
|--------------------------------------|---|
| <b>法律名</b><br><b>労働安全衛生法</b>         | <b>法規区分名</b><br>名称等を表示すべき危険物及び有害物（法第57条第1項、施行令第18条第1号、第2号別表第9）【352鉄水溶性塩】  |
| <b>水質汚濁防止法</b><br><b>下水道法</b>        | 名称等を通知すべき危険物及び有害物（法第57条の2、施行令第18条の2第1号、第2号別表第9）【352鉄水溶性塩】<br>指定物質（法第2条第4項、施行令第3条の3）【52鉄及びその化合物】<br>水質基準物質（法第12条の2第2項、施行令第9条の4）【31鉄及びその化合物（溶解性）】 |
| <b>水道法</b>                           | 有害物質（法第4条第2項）、水質基準（平15省令101号）【34鉄及びその化合物】   |
| <b>海洋汚染防止法</b><br><b>外国為替及び外国貿易法</b> | 有害液体物質（Y類物質）（施行令別表第1）【436ポリ硫酸第二鉄溶液】<br>輸出貿易管理令別表第1の16の項（2）HS2833硫酸塩   |

## 16 その他の情報

**参考文献**

日本ケミカルデータベース(株) 化学物質法規制検索システム  
緊急時応急処置指針 容器イエローカード（ラベル方式）への適用  
国立環境研究所 化学物質データベース (<http://w-chemdb.nies.go.jp/>)  
厚労省 職場のあんぜんサイト  
([https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen\\_pg/GHS\\_MSD\\_FND.aspx](https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/GHS_MSD_FND.aspx))  
国際化学物質安全性カード（ICSC） (<http://www.nihs.go.jp/ICSC/>)  
NITE 化学物質総合検索システム GHS分類結果データベース  
(<http://www.safe.nite.go.jp/japan/db.html>)  
NITE-Gmiccs GHS混合物分類判定ラベル作成システム  
中央労働災害防止協会 安全衛生情報センター (<http://www.jaish.gr.jp/>)

記載内容は、現時点で入手できた資料、情報、データ等に基づいて作成しておりますが、含有量、物理化学的性質、危険・有害性等のデータや評価に関しては、いかなる保証をなすものではありません。

また、注意事項は通常の実用を前提としたものであるため、特殊な取扱いの場合には、その用途・用法に適した安全対策を実施の上、ご利用ください。

本文書は日本産業規格 JIS Z7253:2019に基づいた文書です。